

郵便
報知新聞
第六百六十号

向島植木屋常次郎が娘をさへ
生色つ紅色白き麦粉と糝りなる
如く髪の色も赤くもさへ
腫れ浅黄ありれば人々間の
子とよびてその名と呼ぶの
かりしが歳早年頃より色を
遊ばせてもあつたを同じり
料理屋植半(ついで)働さし
ゆりか不計ある西洋人の目
苗り我が國生きたの娘と
相違ありと多く思ひ入る
通詞の誠の心を述べしめ支る金
月給金ホあまるとよく妾を
入さしとらん

三遊真圓朝述



三遊真圓朝述